

損益差額が過去最低を記録

診療報酬の大幅引き上げが不可欠



富本昌之経税部長が談話発表

診療報酬改定の基礎資料となる医療経済実態調査の速報値(2009年6月実施)が公表された。歯科診療所では前回調査分(07年6月)に比べて、保険・自費とも「医療収益」は改善したにもかかわらず、「医療・介護費用」が収益の伸びを大きく上回って増加し、「損益差額」は過去最低の値になった。

「損益差額」2.7万減

個人の歯科診療所は、2年前と比べ、医療収益では「保険診療」が13.1万円伸びて311.6万円(4.4%増)となり、300万円台を回復した。「その他診療」(自由診療)が1.9万円増(4.5%)の44.2万円、医療収益全体は4.7%伸びて361.6万円となった。

収益に対応する費用面は、「歯科材料費」13.5%

6%増の24.3万円、「その他の医療費用」41.2%増の63.1万円と大幅な伸びを示し、費用総額は8.4%増の241.5万円である。収益から費用を差し引いた「損益差額」は2.7万円減の120.2万円となった。

収益の増加分は、歯科材料費、水道光熱費、消耗品費等、個々の患者治療で生じる固有費用の増加で吸収されてしまい、医院経営の指標となる損益差額はかえって悪化している。

人件費にしわ寄せ

損益差額を維持しようとする経営努力は、歯科衛生士・歯科助手などチームワーク診療にかかせない「給与費」(▲0.2%)や歯科技工士への外注「委託料」(▲9.6%)など、流動性をも

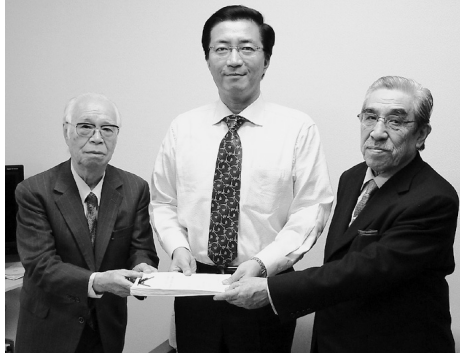
たすことができる人件費的要素に跳ね返らざるをえず、しわ寄せがいく結果となっている。

また、速報値では明らかにされていないが、07年調査確定値の「損益差額」最頻値が76万2600円であることから、今回はさらに低下していることが予想される。

「損益差額」を含め人件費的要素の費用減少は歯科医療の質の悪化をもたらす。現状の経営努力は限界にきている。安定的に良質な歯科医療を提供する抜本的な解決策は、初・再診料をはじめとする診療報酬の大幅な引き上げ以外にない。

協会は、厚労省・中医学協が調査結果を表面的ではなく、十分踏み込んで分析したうえで、診療報酬引き上げ資料として活用することを望むものである。

「仮面ライダー」を口ずさみながら治療する小児歯科医がいた。今、生産ラインに向かって作業している労働者は、歌を口ずさむことなく、耳にはスピーカーからの音楽が流れる。



面談した辻恵衆院議員(民主・上)と、山下芳生参院議員(共産・下)

オンライン問題で要請強める

診療報酬と併せて国会要請

民主党マニフェストに反した省令「改正」を止め、レセオナイン義務化撤回、診療報酬引き上げ、患者の負担軽減を求め、協会・保連は5日、国会要請したのをはじめ長妻厚労大臣らへの文書要請をした。

事、事務局あわせて5人が参加し、大阪選出の衆・参39人の国会議員に、①診療報酬の10%以上の引き上げ②患者の窓口負担の軽減③後期高齢者医療制度の廃止④診療報酬オンライン請求義務化の撤回⑤自主共済の保険業法適用除外——を求めた。辻恵(民主・衆)、山下芳生(共産・参)両議員と面談。小山氏は辻氏に、低く抑えられている歯科診療報酬の引き上げや、誰もが早期に歯科受診できるよう患者負担の軽減を訴えた。またオンライン義務化について、「政府の省令改正案は結局、義務化の方向だ」としてマニフェストの誠実な実行を求めた。辻氏は

下芳生(共産・参)両議員と面談。小山氏は辻氏に、低く抑えられている歯科診療報酬の引き上げや、誰もが早期に歯科受診できるよう患者負担の軽減を訴えた。またオンライン義務化について、「政府の省令改正案は結局、義務化の方向だ」としてマニフェストの誠実な実行を求めた。辻氏は

山下氏は、オンラインも自主共済の問題も議員連盟をつくって行動しないと難しいとして、「このような要請行動を繰り返し行い、それぞれの議員に問題意識をすり込んで欲しい」とと檄を飛ばし、同署名500筆の紹介議員を引き受けた。その他、大谷啓議員(民主・衆)の秘書にも同署名500筆を預けた。

10月30日には、長妻厚労大臣らに「マニフェストに反した省令の拙速な「改正」に反対し、レセオナイン請求義務化の撤回を求める要請」を送付。同様の要請を、11月10日に大阪選出の衆・参国会議員に送った。

大阪市に「適正化推進チーム」

生活保護の不正請求など調査

5回の連載のなかで、指導・監査が近畿厚生局へ移管後、いかに強化されてきたのかを取り上げてきた。

今年3月定例大阪府議

会では、黒田まさこ議員(共産)が個別指導の強化について追及している。新規個別指導では3週間前、個別指導でも3日前に患者名簿を送付してい

たのを、前日の午後にはアクセスされるようになった点について、「以前に3日前とか1週間前だとかに名前を出して不都合があったのですか?どれくらいの件数があったのですか?」との黒田氏の質問に対して、増永剛夫国民健康保険課長は「不都合等については承知いたしております」と明確に回答している。

個別指導の今

社保研究部

最近の新たな動きでは、読売新聞(6月10日付)で生活保護「診療報酬不適切受給860件」と大阪市の事例が取り上げられた。これを受けて

大阪市は、生活保護に関する不正請求などの実態を専任職員が調査する



1日に設置された適正化推進チーム等の体制図

「適正化推進チーム」を1日に設置した(図)。医療機関を取り巻く情勢は日々深刻さを増している。協会は不正請求を容認しないが、強化され続けている個別指導に対抗するための手段の一つとして、弁護士を帯同を推奨している。

厚生局は「請求誤り(ミス)」と「不正請求」を同一視し、医療費抑制のために個別指導を強化しようとしている。そういったやり方に対抗すべく、協会は今後も指導改善にむけた取り組みを進めていく。(おわり)

2010年新年号 会員投稿を募集

機関紙新年号への会員投稿、写真を募集しています。(掲載者には薄謝進呈) 【投稿】600字程度、顔写真を同封ください。①趣味②日常の臨床や家族のこと③新年に思うこと④エッセイや俳句⑤旅行記⑥干支(寅)に関すること⑦お店紹介など 【写真】新年や冬にまつわる風景・人物写真など。サービス版以上4つ切り以下。 ※原稿は、郵便やFAX(06-6568-0564)で新聞部までお送りください。(12月7日必着)

歯界

かつて日本中にあった日本の田植え歌は農業の機械化により減り去ったのだろうか。田植え歌はボルカの舟引き歌やアメリカの鉄道歌などと同様のワーキング・ソングである。

「仮面ライダー」を口ずさみながら治療する小児歯科医がいた。今、生産ラインに向かって作業している労働者は、歌を口ずさむことなく、耳にはスピーカーからの音楽が流れる。

ところで、「大吟醸」という高級酒がある。飲む時でなく、造る時に大声で歌うのだ。「吟醸」から見えてくる風景は冬期に豪雪地帯から季節労働者として灘五郷や伊丹や池田にやってきて、巨大な酒樽の周囲の足場を仲間と歩き回りながら、大きな樽で麴米を掻き回す単純作業である。この際大吟したワーキング・ソングの一節くらい残っているのだが。

巨大酒樽や樽は酒造記念館に展示され、機械で混ぜる麴米にはスピーカーからの音楽をきかせる。それを「大吟醸」と言うのだろうか。